

子ども服リユース「おゆずりぐるり」 ～市民団体と行政の協働による使用済み子ども服の 回収・配布の推進と仕組みづくり～ 事業報告書

特定非営利活動法人
とよなか市民環境会議アジェンダ21

2024年12月

1. 対象地域の概要

- 対象地域

大阪府豊中市

- 人口等（2024年11月1日現在）

人口：398,192人

世帯数：181,374世帯（1世帯平均 約2.2人）

- 年齢構成（令和2年度国勢調査）

0～14歳：54,916人（約13.7％）

15～64歳：240,797人（約60.0％）

65歳以上：105,397人（約26.2％）

未就学児 23,624人（約5.9％）

小中学生 33,367人（約8.3％）

1. 対象地域の概要

● 特徴（「第2次豊中市都市計画マスタープラン」参照）

- ・ 市内全域が市街化区域
- ・ 住居系施設の割合が高く、人口の99%が駅・バスの圏内
- ・ 昭和30年代中頃～40年代中頃に大規模な公的住宅などが開発
- ・ エリア別

北部・北東部・東部：戸建と集合住宅が比較的明確に分かれている

（イメージ）会社員を中心としたニュータウンのエリア

中北部・中部：戸建と集合住宅が混在した市街地が多くを占める

（イメージ）昔からの富裕層や転勤族などが多く住むエリア

西部：空港関連施設や工業系施設が多く立地

（イメージ）工業系で夜間人口が少ないエリア

南部：住居系施設と工業系施設が混在

（イメージ）人情ある下町エリア



2. 事業の目的

- 対象エリア

豊中市全域（豊中市内の特定のエリアに限定しない）

- 対象の規模

本モデル事業の参加者合計を12,000人（人口の約3％）に設定

- 現状の取組み（応募時点）

【商店街や公共施設で期間限定のイベントとして実施】

2024年4月 センちゅうパル（商店街の空き店舗） 【7日間】

参加者約2,000人

子ども服 回収約3,100枚、配布約5,400枚

2024年4月 服部西会館

参加者約150人

子ども服 回収約350枚、配布約450枚



2. 事業の目的

【イベント等でのブース出展】

2023年10月 みんなあつまれわくわくランド

参加者約170人（ブースへの参加者）

子ども服 回収約1,300枚（事前回収含む）、配布約300枚

【常設拠点の一部で子ども服の補充・調整等のサポート】

- ・ 豊中市立蛍池公民館（蛍池中町）
- ・ 社会福祉法人和 NAGOMI+（新千里南町） など



2. 事業の目的

●現状の課題と対応（応募時点）

- （課題）イベントの実施日以外での回収・配布場所の問合せが多くなっている。また、次回のイベントを案内しても日常の生活圏から離れていて参加が難しいケースもある。

→（対応）常設拠点の拡充が求められる。

- （課題）豊中市のこども園では回収は70～100cmサイズの子ども服が集まりやすい傾向にある。一方で、子どもの成長により大きいサイズがほしいというニーズがあり、110cm以上のサイズが不足傾向にある

→（対応）110cmサイズ以上を着ることが多い小学校や、サイズの傾向なく集められるスーパーでの回収を試みる。

- （課題）常設拠点の運営では、子ども服の在庫切れの対応が必要であり、また、常設拠点のスタッフは子ども服の対応に割ける時間に限りがある。

→（対応）施設担当者や参加者、他の常設拠点や協働する団体とコミュニケーションを取りながら服の在庫管理や取組みの発信を行うコーディネーターの存在が不可欠である。

3. 事業の内容

事業目標

子ども服10,000枚の回収と配布、参加人数12,000人

①子ども服リユース常設拠点での回収

- ・既存拠点での運営
- ・新規開設の開設（2～3か所）
- ・常設拠点運営の手引き作り

②イベント等の実施

- ・イベントの開催
- ・回収の実施（コープ桜塚、千里体育館）

③小学校でのモデル実施

- ・小学校での回収の実施（1～2校）
- ・小学校での環境学習の試行

3. 事業の内容

④回収ボックスの制作

⑤子ども服の在庫整理とボランティア体験会

- ・子ども服の在庫整理
- ・ボランティア体験会
- ・コーディネーターの育成
- ・コーディネーター育成の手引き作り

⑥広報・情報発信

- ・リーフレット等の制作・配布
- ・SNSへの情報発信

⑦その他

- ・関係者での意見交換会
- ・事業報告書の作成

4. 事業の実施体制

● 当団体

役職等	人数	役割等
事務局長	1人	・ 環境省や豊中市との連絡調整 ・ 常設拠点間の子ども服の調整・運搬等 ・ イベント実施の調整・対応等 ・ 関係者による意見交換会の実施等
常勤職員	1人	・ コーディネーターとの連絡調整 ・ ボランティア体験・登録の対応 ・ 広報・SNS関係対応
非常勤職員	1人	・ 他職員の補助 ・ 連携する団体との調整 ・ コーディネーター育成の手引き作り
アルバイト	3人	・ イベント実施時の現場対応

4. 事業の実施体制

● 連携団体（市民団体）

団体名	役割等
一般社団法人 ソーシャルギルド	・ 小学校との調整（子ども服の回収、環境学習プログラム）と環境学習プログラムの企画・実施 ・ 子ども服回収ボックスの制作に関する事業者との調整 ・ 子ども服回収の展示パネル作成
北条たんぽぽの会	・ 子ども服リユースイベントを協働で実施 ・ 子ども服仕分け作業への協力 ・ シミ・汚れのある子ども服の洗濯を試行実施
赤ちゃんからの ESD coral	・ SNSでの環境情報の発信
一般社団法人 未来キャンバス きみいろ	・ リーフレット、ショップカードの制作等
（各団体共通）	・ 常設拠点のコーディネーターとして協力 ・ ボランティアコーディネートの協力 ・ ボランティアコーディネートの手引き作成の協力 ・ 意見交換会への参加

4. 事業の実施体制

● 連携団体（行政・事業者・学校）

団体名	役割等
豊中市環境部 家庭ごみ事業課	・ 子ども服の保管場所を提供し、市民団体と協働で検品や在庫管理 ・ 回収した子ども服や備品の貸出し ・ 市の媒体を通じた取り組みの発信に協力
豊中市環境部 ゼロカーボン シティ推進課	・ 環境交流センターの担当課として、小学校等へのチラシ配架の調整・協力
豊中市立図書館	・ イベント実施の会場提供（共催での開催）
コープ桜塚	・ 毎月1週間程度、店内に回収ボックスを設置 ・ 子ども服回収のポスター等を店内に掲示
株式会社 GREEN FLAG	・ 廃棄せざるを得なかった子ども服を活用し、子ども服回収ボックスを制作
豊中市立小学校	・ 環境学習プログラムのモデル実施 ・ 小学校での子ども服の回収

4. 事業の実施体制

● 事業に協力する市民（個人）

名称	人数	役割等
ボランティア	20人程度	・ ボランティア体験会に参加した市民が希望すれば登録 ・ 回収した子ども服の仕分け作業の協力 ・ イベント当日に会場で子ども服の補充や、回収した子ども服の仕分け ・ 担当する常設拠点へ定期的に訪問し、子ども服の補充、在庫の確認、SNS等での発信、当団体の担当職員との連絡調整等を行う

4. 事業の実施体制

● 市民への協力要請の内容

<対象者>

- ・子育て中（または孫育て中）の市民で、子ども服を必要とする人
- ・家に眠っている子ども服を手放したいと考えている人

<市民への要請内容>

- ①子ども服の回収時は、洗濯済みのものとし、シミ汚れのあるものは避ける。
- ②回収場所に持参した子ども服は、子ども服を自分でハンガーに設置する場合や、サイズ別の回収ボックスに分けていれる場合など、回収拠点によって異なるため、その対応に合わせていただく。
- ③イベントに参加した場合、会場で子ども服リユースのアンケートに協力する（任意）。アンケートに協力した場合は、マチカネポイントを進呈する。

4. 事業の実施体制

● 豊中市との協議事項

主な協議内容

- ・ 定量的な効果検証に向けて、豊中市データの提供（応募時）
- ・ シミ・汚れのある子ども服について廃掃法との関係の確認
- ・ 小学校での環境学習プログラムの協力の可能性について
- ・ 常設拠点の開設や新たな会場でのイベント実施等について
- ・ モデル事業終了後の取組みや連携について
- ・ 子ども服や備品関係の貸出し、調整等について

協議の方法

- ・ 本モデル事業への応募時・実施期間中に、意見交換会・個別の打合せにより豊中市との調整・協議を実施
- ・ 本モデル事業の進捗状況は、市の担当者にもメール等で適宜報告

4. 事業の実施体制

● 豊中市との廃掃法に関する確認事項（12/17再確認）

子ども服の廃棄処理について

- ・ 当団体が主催・共催するおゆずりぐるりで発生したシミ・汚れのある子ども服について、当団体が契約している一般廃棄物処理の指定業者に引き渡すことは最も適正な方法であり、何ら問題がない。この他の方法として、豊中市伊丹市クリーンランド（清掃工場）へ自ら持ち込み処理する方法がある。なお、清掃工場へ持ち込む際、運搬する乗用車への表示までは求められていない。
- ・ 当団体から他の常設拠点等へ子ども服を提供し、その中にシミ・汚れのある子ども服が混ざっていた場合は、該当する服だけを返却してもらい、前述の方法で処理をするのであれば問題がない。
- ・ 他の常設拠点やイベントの実施主体が独自に子ども服を回収し、その中にシミ・汚れのある子ども服があった場合は、各実施主体が自分たちで前述のような方法により処理をしてもらうことになる（当団体が回収を行ったら、廃掃法違反になる）。

4. 事業の実施体制

● 豊中市との廃掃法に関する確認事項（12/17再確認）

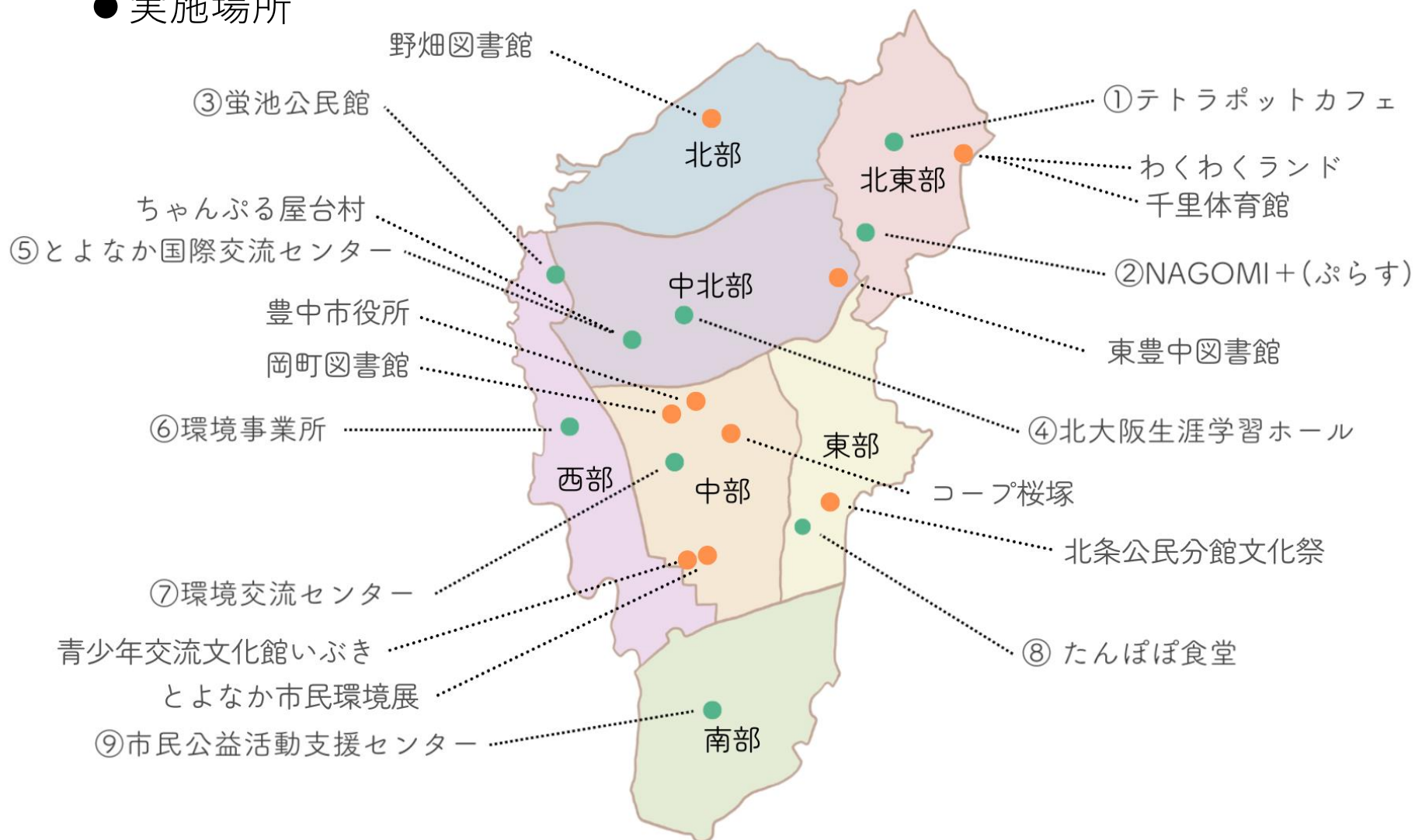
子ども服のリサイクルについて

・シミ・汚れのある子ども服について、資源循環を目的に回収し、回収した全量をリサイクルに回すのであれば、廃掃法に抵触しない。言い換えると、他の常設拠点にあるシミ・汚れのある子ども服を回収し、それらをすべてリサイクルするのであれば、回収することは差し支えない。その際、公民館などの豊中市直営の施設から回収し、リサイクルに回すことも問題ない。

・本モデル事業応募時に、家庭ごみ事業課に保管されている子ども服のうち、シミ・汚れのあるものを回収ボックス制作のために提供できないと回答があった。これは、こども園で回収をする際に、回収ボックスに入れる市民に対してリサイクルで活用する旨を示していないという道義的な観点から判断したものであり、廃掃法に違反するから提供できないと回答したわけではない。

5. 事業の成果

● 実施場所



5. 事業の成果

● 実施結果

① 子ども服リユース常設拠点での回収

既存拠点での運営（環境交流センター）



< 設置 >

- ・ハンガーラック（3台）
- ・回収ボックス
- ・展示パネル（3枚）
- ・チラシ・リーフレット等
- ・のぼり旗

< 実施 >

- ・利用者のカウント
- ・配布・回収枚数の集計
- ・アンケート実施（12/1～15）

5. 事業の成果

①子ども服リユース常設拠点での回収

既存拠点での運営（環境交流センター）

期間	参加者	回収	配布
6/21～30	34人	46枚	84枚
7/1～31	133人	53枚	361枚
8/1～31	94人	82枚	325枚
9/1～30	86人	139枚	213枚
10/1～31	99人	144枚	502枚
11/1～30	91人	161枚	437枚
12/1～15	110人	271枚	280枚
合計	647人	896枚	2,202枚

※12月は15日までの実績で集計

アンケート実施：12/1～15

回答19人（マチカネポイント付与18人）

5. 事業の成果

①子ども服リユース常設拠点での回収

新規拠点の開設（テトラポットカフェ）

豊中市の複合施設である千里文化センター「コラボ」内
公民館、図書館、出張所、保健センター、介護予防センターがある
市の協働事業市民提案制度で採択された市民グループがカフェを運営
カフェの一角に常設拠点を開設（10/31～）
週1回の有人と、ボランティアによる服の補充で運用

期間	補充	回収
10/31	30枚	80枚
11/1～30	479枚	306枚
12/1～12	0枚	32枚
合計	509枚	418枚

※カフェによる実績報告を記載

※補充とは、当団体や連携団体からの提供分

※配布や参加者はカウントしていない



5. 事業の成果

①子ども服リユース常設拠点での回収

新規拠点の開設に向けた試行実施（青少年交流文化館いぶき）

青少年を対象とした公共施設で親子向けのイベント等も実施
常設拠点に関心はあるが、いきなりの設置はハードルが高いとのこと
まずは親子対象のイベントで子ども服の配布等を行った
施設内に入居している一般社団法人キャリアブリッジの協力も得た
（就労支援の若者の仕分け作業への参加や服の保管など）

月日	内容	参加者	配布	回収
11/27	育みサロン ～ころころ～	11組	126枚	—
12/17	クリスマス コンサート	57人	120枚	61枚



5. 事業の成果

②イベント等の実施

イベントの開催・参加

期間	行事名	参加者	配布	回収	アンケート	マチカネP付与
6/24～28	魅力発信コーナー(6月)	—	208枚	—	—	—
7/5～12	野畑図書館	501人	1,280枚	2,130枚	63人	52人
8/2～8	魅力発信コーナー(8月)	—	149枚	—	—	—
8/27～9/1	岡町図書館	682人	2,384枚	2,327枚	148人	130人
9/28	ちゃんぷる屋台村	197人	502枚	163枚	—	—
10/7～11	魅力発信コーナー(10月)	—	203枚	—	—	—
10/23～30	東豊中図書館	705人	2,409枚	3,101枚	111人	103人
11/16	とよなか市民環境展	49人	—	537枚	29人	28人
11/23～24	北条公民分館文化祭	224人	1,275枚	296枚	19人	18人
12/2～6	魅力発信コーナー(12月)	—	246枚	—	—	—
12/7	わくわくランド	148人	740枚	158枚	25人	19人
	合計	2,506人	9,396枚	8,712枚	395人	350人

※参加者には、関係者やボランティア等を含む

※アンケートは重複回答を除いた有効回答数

※とよなか市民環境展はおゆずりぐるりとしての実施分（回収のみ）を記載

5. 事業の成果

②イベント等の実施

イベントの開催・参加



野畑図書館



魅力発信コーナー



岡町図書館



ちゃんぷる屋台村



とよなか市民環境展



みんなあつまれわくわくランド

5. 事業の成果

②イベント等の実施

子ども服の回収（コープ桜塚）

期間	回収
7/12～18	107枚
8/9～15	314枚
9/13～19	1,362枚
10/11～17	896枚
11/8～14	1,488枚
合計	4,167枚

※11/8の9～17時のみに現地で確認を行ったところ、
時間中に7人で計140枚の回収があった



子ども服の回収（千里体育館）

期間	回収
11/22～12/5	1,564枚

5. 事業の成果

③小学校でのモデル実施

北条小学校

- ・ 連携団体（2団体）で訪問し、校長先生に説明等を行った
- ・ 関心を示されたが、年度途中であり、授業時間との関係で実施に至らず

大池小学校

【小学校での環境学習の試行】

11/1 4年生で環境学習を実施
(各クラス1コマ、3クラスで計約100人)

【小学校での子ども服の回収】

10/28～11/9 校内に回収ボックスを設置

回収：1,094枚（ダンボール箱21箱分）

回収方法：10箱 期間の途中に小学校からゆうパックで配送

11箱 最終日以降に訪問し、車で運搬



5. 事業の成果

④回収ボックスの制作

<制作者（連携先）>

- ・（株）GREEN FLAG

<制作方法>

- ・シミ・汚れなどのある子ども服約80kgを提供し、提供した子ども服を原材料として、回収ボックス10台分を制作

- ・衣類を原材料として再生繊維フェルト（Rebornfiber®）のボード材やシート材を製造しており、ボード材を組み立てる形で制作

- ・ボード材を制作するために必要な服を提供することは必須であるが、すでに制作されているボード材を活用するか、提供した子ども服そのものを使って制作をするかにより費用が異なる。今回は市民向けの啓発を兼ねるため、割高になる後者を選択。一方で、すでにある回収ボックスのデザインを活用しており、デザイン費はかかっていない。

- ・使用済みの子ども服から子ども服専用の回収ボックスを制作した事例としては初となる。

5. 事業の成果

④回収ボックスの制作

<活用方法>

- ・ 常設拠点やイベント会場（一部）で回収ボックスとして設置
- ・ 回収ボックス1台で、ダンボール箱120サイズと同等の容積がある

※ダンボール箱などとは異なり、回収ボックスの入口の大きさに制限があるため、イベント会場で複数サイズのボックスを設置する場合はダンボール箱と併用するとか、紙袋で持ち込まれた場合は紙袋のまま受け取るなどの運用が必要



5. 事業の成果

⑤子ども服の在庫整理とボランティア体験会

子ども服の在庫整理

北条たんぽぽの会が中心となり、環境事業所の子ども服を仕分け
仕分け方法などを見直し、コーディネーターの手引きに反映



5. 事業の成果

⑤子ども服の在庫整理とボランティア体験会

ボランティア体験会

月日	場所	参加者	登録
9/10	環境交流センター	8人	8人
11/21	千里文化センターコラボ	3人	3人
11/27	蛍池公民館	5人	4人
12/4	市民公益活動支援センター	7人	4人

※いずれも常設拠点のある場所にて実施



5. 事業の成果

⑤子ども服の在庫整理とボランティア体験会

ボランティア体験会

<参加者の募集方法>

- ・過去のイベントで参加者アンケートに回答し、「2. ボランティアの募集等に関する案内」を選択した方へ、開催案内のメール送信
- ・子ども服のイベント会場での募集用ポスターの掲示
- ・Instagramでの告知（募集の掲載）
- ・連携団体のネットワーク（SNS含む）による情報共有
- ・豊中市の広報誌への掲載（蛍池公民館と共催の場合のみ）

<申込み方法>

- ・原則としてメールフォームを通して申込みを受付、受付確認などはメールで返信（件数は少ないが、電話での問合せも対応）
- ・蛍池公民館と共催の場合のみ、公民館が手続きをして、豊中市の電子申込システムにて受付

5. 事業の成果

⑤子ども服の在庫整理とボランティア体験会

ボランティア体験会

<実施内容等>

- ・子ども服にまつわる現状の説明
- ・子ども服の仕分け体験
- ・ボランティア登録の説明（希望者のみ）

<インセンティブ>

説明会は登録前のため交通費等の支給がない代わりに、仕分けした子ども服のうち、好きなものを5枚程度持ち帰ることができることとした

<参加者の特徴>

- ①1歳未満の子どもがいる育児休暇取得中の人
- ②一番下の子どもが未就学児で、フルタイムで仕事をしていない人
- ③子ども服を着る孫がいる、60代前後のシニアの人
- ④就労体験等を目的とした若者

※割合としては、①②で半数以上を占める

5. 事業の成果

⑤子ども服の在庫整理とボランティア体験会

コーディネーターの育成

<役割や分担（応募当初）>

【コーディネーター】

各自が担当の常設拠点を決めて、定期的に訪問する

担当の常設拠点の職員が子ども服の補充等に時間を割けないためのサポートや足りないサイズの子ども服の調整、常設拠点の広報などを担う

意見交換会などにも参加し、情報共有等を行う

1回につき2,000円の交通費を支払う（モデル事業とは別費用）

【ボランティア】

イベント等を継続的に実施するため、イベント前の仕分け作業やイベント当日の運営をサポートする

1回2時間の協力で1,000円の交通費を支払う（モデル事業とは別費用）

見込みのあるボランティアを研修し、コーディネーターに昇格させる

5. 事業の成果

⑤子ども服の在庫整理とボランティア体験会

コーディネーターの育成

<役割や分担（モデル事業の終了時）>

【コーディネーター】

主に連携団体のメンバーで登録をした人が担う

意見交換会などにも参加するなど、作業以外の役割も担う

【ボランティア】

ボランティア体験会に参加して登録をした人（LINEのオープンチャットへの登録を基本とし、オープンチャットに必要な情報を共有）

意欲的なボランティアが多かったため、一部のメンバーに常設拠点のサポートを担ってもらった（コーディネーターへの昇格ではなく、ボランティアの関わり方の1つとして、常設拠点の対応を設定する形に）

活動頻度としては、常設拠点へ週に1回程度行く人もいれば、登録後にまだ1回も参加していない人もいる。子どもの体調不良等により、直前になってから欠席連絡が来る人もいる。

5. 事業の成果

⑤子ども服の在庫整理とボランティア体験会

コーディネーターの手引きの作成

これからコーディネーターをめざしたい人、常設拠点の新規担当者、常設拠点等の設置をしたい人向けに、これまでの経過やノウハウ等をまとめた手引きを作成

手引きの作成に際しては、各連携団体に協力を得て意見交換を実施し、その内容も盛り込む形とした

ボランティア登録者の中には、育児休業中の他の自治体職員などもおり、復帰後には勤務先の自治体でも実施を検討したいという声があり、個別にすべてを説明することは困難であることから、手引きにすることで、まとめた情報の共有なども可能になると考えられる

5. 事業の成果

⑥広報・情報発信

ショップカードの制作

常設拠点やイベント会場にて関心を持った人が手軽に持ち帰ることができるツールとして制作（名刺サイズ）

リーフレットの制作

常設拠点のPRや市民向けの説明資料として、子ども服リユースの意義や市内の常設拠点をまとめたものを制作（A4三つ折りサイズ）



5. 事業の成果

⑥広報・情報発信

チラシの作成

イベントや回収ごとにPR用のチラシを制作（A5サイズ）

環境交流センターの主催と位置付けることで、市の庁内便（学校や施設等に資料等を車両で配送する仕組み）を活用し、会場場所周辺の小学校やこども園の全児童・園児にチラシを配布

行事名	印刷枚数	主な配布先
野畑図書館	5,500枚	小学校5校、こども園3園
岡町図書館	7,000枚	小学校9校、こども園3園
コープ桜塚(回収)	5,500枚	小学校7校、コープこうべ
東豊中図書館	5,500枚	小学校6校、こども園2園
とよなか市民環境展	3,000枚	小学校4校、こども園2園
北条公民分館文化祭	1,200枚	小学校1校、こども園2園
千里体育館(回収)	4,500枚	小学校5校、こども園3園、体育館利用者

※野畑図書館のチラシはモデル事業の採択日以前に別予算で印刷・配布

5. 事業の成果

⑥広報・情報発信

チラシの作成

モデル事業の実施を通して、市内の小学校39校中28校に1回以上のチラシを配布し、子ども服リユースについて広くPRすることができた。

エリア	エリア内の 小学校	配布した 小学校
北部	5校	5校
北東部	6校	6校
中北部	7校	5校
西部	3校	2校
中部	7校	7校
東部	5校	3校
南部	6校	0校
合計	39校	28校

※小学校区が複数のエリアにまたがる場合は、小学校の位置するエリアに分類

5. 事業の成果

⑥広報・情報発信

チラシの作成

アンケートで「チラシ」がイベント参加のきっかけである回答が多かったことから、チラシのPR効果が大きいことがわかった

選択肢	回答数	割合(%)
1. チラシ	118	34.6
2. ポスター	11	3.2
3. (施設名)からの情報	13	3.8
4. 知人からの情報	23	6.7
5. SNS	43	12.6
6. インターネット検索	9	2.6
7. マチカネポイントアプリの通知	76	22.3
8. 環境交流センターからの案内	14	4.1
9. (施設名)に来たらやっていた	33	9.7
10. その他	1	0.3
合計	341	100.0

5. 事業の成果

⑥広報・情報発信

Instagramでの発信

おゆずりぐるりのInstagramで情報を発信

投稿数：25件（モデル事業期間中）

投稿内容：取組み紹介、イベント等の告知や報告、環境に関する発信

マチカネポイントアプリでの発信

一部のイベントで、アンケート回答者にマチカネポイント（豊中市のデジタル地域ポイント）を付与

マチカネポイントを付与する行事は、希望すればアプリからプッシュ通知でポイントがもらえる内容を告知できるため、一部のイベントで活用

イベントを知った広報手段として一定の効果があったが、イベントによって効果に差があった

岡町図書館：17.6%（その他の選択肢で回答）

東豊中図書館：45.0%

5. 事業の成果

⑦その他

子ども服リユースの意見交換会

7月25日、10月2日、12月10日（各1時間半程度）

<参加者>

当団体、連携団体（豊中市、市内の各市民団体）

<主な内容>

モデル事業の進捗報告

課題の共有

今後の方向性についての意見交換

環境省への提出内容の確認 など

5. 事業の成果

● 目標の達成状況

事業目標

子ども服10,000枚の回収と配布、参加人数12,000人

項目	参加者	配布	回収
イベントの実施	2,506人	9,396枚	8,712枚
コープ桜塚の回収	208人	—	4,167枚
千里体育館の回収	—	—	1,564枚
環境交流センターの常設拠点	647人	2,202枚	896枚
千里文化センターの常設拠点	—	—	418枚
いぶきの常設拠点の試行実施	79人	246枚	61枚
大池小学校での実施	100人	—	1,094枚
合計	3,540人	11,844枚	16,912枚

※コープ桜塚は概算人数、いぶきは参加者1組を2人として計算

子ども服の回収と配布は目標枚数以上を達成した。
参加人数は目標を大きく下回り、人口の1%未満（約0.9%）に留まった。

5. 事業の成果

● 目標の達成状況

(参考) コープ桜塚の参加者の概算

11/8 9:00～17:00 回収の立ち合い

7人で140枚の回収 …1人あたり20枚



11月の回収枚数 1,488枚

1人あたり20枚とすると、74.4人（≒74人）が持参したことになる
また、1人あたり20枚をモデル事業の期間に当てはめると以下となる

期間	回収	平均	参加者(概算)
7/12～18	107枚	5.4	5人
8/9～15	314枚	15.7	16人
9/13～19	1,362枚	68.1	68人
10/11～17	896枚	44.8	45人
11/8～14	1,488枚	74.4	74人
合計	4,167枚	—	208人

※平均の小数第1位を四捨五入した数字を人数の概算としている

5. 事業の成果

● 目標の達成状況

(参考) 参加者の年代について (アンケート)

選択肢	回答数	割合(%)
1. 10代	1	0.2
2. 20代	10	2.4
3. 30代	153	37.0
4. 40代	175	42.3
5. 50代	35	8.5
6. 60代	28	6.8
7. 70代	8	1.9
8. 80代以上	0	0.0
9. 答えたくない	4	1.0
合計	414	100.0

(関連) 母の年齢別出生数割合 (2023年)

年齢	人数	割合(%)
15～19歳	12人	0.4
20～24歳	111人	3.8
25～29歳	716人	24.7
30～34歳	1,136人	39.2
35～39歳	738人	25.4
40～44歳	183人	6.3
45～49歳	4人	0.1

※こどもすこやか育みプラン・とよなか
(令和5年度事業実施報告書)

アンケートから20代以下の参加者が極端に少ない一方で、
豊中市で子どもを出産した母親の3割近くは20代以下である。

初産では子ども服を新調する傾向にあるのに対し、
2人目以降は自身の1人目のおさがりを利用することも含めて、
リユースに対して寛容になっていくことなどが想定され、
イベントの方が年代が高くなっていることなどが考えられる。

5. 事業の成果

● 目標の達成状況

(参考) 回収した子ども服の内訳 (会場別の枚数)

	～70	80	90	95	100	110	120	130	140 ～	その 他	汚れ	小計
野畑図書館	150	247	237	114	273	277	240	194	269	80	49	2,130
岡町図書館	136	338	294	142	212	265	221	215	363	53	88	2,327
ちゃんぷる	23	35	13	13	15	13	9	14	23	5	0	163
東豊中図書館	144	346	295	115	335	532	496	384	336	57	61	3,101
環境展	34	93	92	27	81	66	56	31	56	0	1	537
北条公民分館	11	20	37	2	30	40	39	32	66	11	8	296
わくわくランド	6	26	23	7	14	8	32	22	7	5	8	158
コープ桜塚	108	413	481	190	474	393	484	478	760	186	200	4,167
千里体育館	34	144	105	88	208	226	184	221	234	70	50	1,564
交流センター	53	78	104	41	100	100	165	123	125	3	4	896
大池小学校	16	90	144	45	85	103	173	154	165	54	65	1,094
いぶき	5	14	9	1	16	11	1	0	1	1	2	61
合計	720	1844	1834	785	1843	2034	2100	1868	2405	525	536	16,494

5. 事業の成果

● 目標の達成状況

(参考) 回収した子ども服の内訳 (会場別の割合)

	～70	80	90	95	100	110	120	130	140～	その他	汚れ
野畑図書館	7.0%	11.6%	11.1%	5.4%	12.8%	13.0%	11.3%	9.1%	12.6%	3.8%	2.3%
岡町図書館	5.8%	14.5%	12.6%	6.1%	9.1%	11.4%	9.5%	9.2%	15.6%	2.3%	3.8%
ちゃんぷる	14.1%	21.5%	8.0%	8.0%	9.2%	8.0%	5.5%	8.6%	14.1%	3.1%	0.0%
東豊中図書館	4.6%	11.2%	9.5%	3.7%	10.8%	17.2%	16.0%	12.4%	10.8%	1.8%	2.0%
環境展	6.3%	17.3%	17.1%	5.0%	15.1%	12.3%	10.4%	5.8%	10.4%	0.0%	0.2%
北条公民分館	3.7%	6.8%	12.5%	0.7%	10.1%	13.5%	13.2%	10.8%	22.3%	3.7%	2.7%
わくわくランド	3.8%	16.5%	14.6%	4.4%	8.9%	5.1%	20.3%	13.9%	4.4%	3.2%	5.1%
コープ桜塚	2.6%	9.9%	11.5%	4.6%	11.4%	9.4%	11.6%	11.5%	18.2%	4.5%	4.8%
千里体育館	2.2%	9.2%	6.7%	5.6%	13.3%	14.5%	11.8%	14.1%	15.0%	4.5%	3.2%
交流センター	5.9%	8.7%	11.6%	4.6%	11.2%	11.2%	18.4%	13.7%	14.0%	0.3%	0.4%
大池小学校	1.5%	8.2%	13.2%	4.1%	7.8%	9.4%	15.8%	14.1%	15.1%	4.9%	5.9%
いぶき	8.2%	23.0%	14.8%	1.6%	26.2%	18.0%	1.6%	0.0%	1.6%	1.6%	3.3%
合計	4.4%	11.2%	11.1%	4.8%	11.2%	12.3%	12.7%	11.3%	14.6%	3.2%	3.2%

5. 事業の成果

● 目標の達成状況

(参考) 1人あたりの子ども服の回収枚数

イベント名	回収	回収参加	平均	(参考) 参加者
東豊中図書館	3,101枚	203人	15.3枚	705人
環境展	537枚	49人	11.0枚	—
北条公民分館	296枚	28人	10.6枚	224人
わくわくランド	158枚	15人	10.5枚	148人
合計	4,092枚	295人	13.9枚	
コープ桜塚(概算)	4,167枚	208人	20.0枚	—
環境展(アンケート)	277枚	29人	9.5枚	
交流センター(アンケート)	110枚	9人	12.2枚	

会場により枚数に多少の差があるが、平均で概ね10枚以上になる。
ただし、実態としては1人で数枚の方もいれば、複数の袋に入れて大量に
持ち込む人もおり、個人差が大きかった。

5. 事業の成果

● 目標の達成状況

(参考) 1人あたりの子ども服の配布枚数 (アンケート結果から)

イベント名	回答者へ 配布	回答	平均	(参考) 配布枚数
野畑図書館	298枚	54人	5.5枚	1,280枚
岡町図書館	627枚	95人	6.6枚	2,384枚
東豊中図書館	431枚	65人	6.6枚	2,409枚
北条公民分館文化祭	163枚	17人	9.6枚	1,275枚
わくわくランド	142枚	21人	6.8枚	740枚
環境交流センター	30枚	15人	2.0枚	280枚

※回答人数はアンケート回答者のうち、持ち帰ったと回答した人数

※環境交流センターは、12/1～15の実績

いずれも1人あたりの平均は、回収より配布枚数の方が少ないが、会場では配布人数が多いため、総数は配布枚数の方が多くなることも。イベントと異なり、常設拠点は設置枚数が少ないため、平均も少ない。

5. 事業の成果

- 効果検証（定量的な効果の評価・検証）

本モデル事業における子ども服1枚あたりの重量

項目	回収	重量	1枚平均
コープ9月分	1,362枚	194.5kg	142.8g
コープ10月分	896枚	137.5kg	153.5g
コープ11月分	1,488枚	242.0kg	162.6g
大池小学校	1,094枚	163.5kg	149.5g
合計	4,840枚	737.5kg	152.4g

回収・仕分け時に回収した子ども服を計量できた範囲では、1枚平均の重量が約152gであるため、本モデル事業の重量に設定する。

5. 事業の成果

● 効果検証（定量的な効果の評価・検証）

イベントで回収・配布した子ども服による資源化可能な繊維類の削減

- ・ 豊中市の廃棄物処理における繊維類の割合（令和4年度・確定値）

項目	重量
可燃ごみに含まれる資源化可能な繊維類	約705トン
再生資源で回収された布類	約392トン
合計	約1,097トン

- ・ 本モデル事業で回収した（廃棄されなかった）子ども服の重量

1枚あたり152 g × 回収枚数合計16,912枚 ÷ **約2.570トン**

- ・ 豊中市の資源化可能な繊維類に寄与した割合

2.570トン ÷ 1,097トン × 100 ÷ **約0.23%**

市人口398,192人 × 0.23% ÷ **約916人**

豊中市の資源化可能な繊維類の削減のおよそ0.23%に寄与した。
これは市民人口のうち、およそ916人分に相当する。

5. 事業の成果

● 効果検証（定量的な効果の評価・検証）

イベントで回収・配布した子ども服による二酸化炭素排出量の削減

- ・ 豊中市の家庭部門から排出された温室効果ガス（令和4年度・確定値）

→**435,057t-CO₂**（排出係数は変動値による計算）

- ・ 服1枚あたりの製造にかかる二酸化炭素排出量

服1枚250gとした際の排出量は25.5kg-CO₂※

→1gあたり0.102kg-CO₂となる

本モデル事業で扱う子ども服（152g）の製造にかかる二酸化炭素排出量

→ $152\text{g} \times 0.102\text{kg-CO}_2 \div \text{約}15.5\text{kg-CO}_2$

- ・ ①**本モデル事業での配布により回避されたとみなす子ども服の製造**

1枚あたり15.5kg-CO₂ × 配布枚数合計11,844枚 ÷ **約183.6t-CO₂**

5. 事業の成果

● 効果検証（定量的な効果の評価・検証）

イベントで回収・配布した子ども服による二酸化炭素排出量の削減

・ ②本モデル事業での配布により回避されたとみなす子ども服の廃棄

合成繊維割合※¹ 63.6% × 排出係数※² 2.31t-CO₂ × 回収重量2,570トン
≒ 約3.8t-CO₂

・ ①+②本事業で削減できた二酸化炭素排出量

183.6t-CO₂ + 3.8t-CO₂ ≒ **187.4t-CO₂**

・ 豊中市の家庭部門からの排出削減に寄与した割合

187.4t-CO₂ ÷ 435,057t-CO₂ × 100 ≒ **約0.043%**

市人口398,192人 × 0.043% ≒ **約171人**

豊中市の家庭部門から排出される二酸化炭素量の
およそ0.043%の削減に寄与した。
これは市民人口のうち、およそ171人分に相当する。

※ 1 廃棄物分野における排出量の算定方法について一廃棄物分科会（環境省）より

※ 2 温室効果ガス排出量算定に関する検討結果（案）（環境省）より

5. 事業の成果

● 効果検証（定量的な効果の評価・検証）

イベントで配布した子ども服による家計の支援の効果（経済的効果）

問：持ち帰った服を購入したと考えた場合、平均して1枚あたりいくらくらいの価値があると思いますか。

選択肢	回答数	全体の割合(%)	回答中の割合(%)
1. 250円未満	73	19.0	27.3
2. 250～500円未満	71	18.4	26.6
3. 500～750円未満	51	13.2	19.1
4. 750～1,000円未満	34	8.8	12.7
5. 1,000円以上	34	8.8	12.7
無回答	4	1.0	1.5
質問の対象外	118	30.6	—
合計	385	100.0	100.0

※アンケート回答数のうち、子ども服を持ち帰っていない人は質問の対象外としている

アンケート回答者の半数近くが500円以上の価値があるとしている。

5. 事業の成果

● 効果検証（定量的な効果の評価・検証）

イベントで配布した子ども服による家計の支援の効果（経済的効果）

・ 計算方法

アンケートの選択肢に応じて、1枚あたりの単価を設定

選択肢	設定単価
1. 250円未満	125円
2. 250～500円未満	375円
3. 500～750円未満	625円
4. 750～1,000円未満	875円
5. 1,000円以上	1,125円

有効回答263人について、

各回答者が持ち帰った子ども服の枚数 × **回答に基づく** 設定単価で
個別に計算

→ 計1,634枚で**合計827,500円相当**となる（**1枚あたり506.4円**）

506.4円 × 配布全体11,636枚 = **約590万円相当（概算）** となる

本モデル事業を通して600万円近い経済効果があったと言える。

5. 事業の成果

● 効果検証（定量的な効果の評価・検証）

常設拠点を設置することによる施設の活性化（アンケート）

問：今日の環境交流センターの来館と常設拠点の利用の関係について教えてください。

選択肢	回答数	割合(%)
1. 子ども服の常設拠点が主な目的で来館した	11	57.9
2. 子ども服以外の利用が主な目的で来館した	5	26.3
3. 子ども服の常設拠点と他の利用の両方が主な目的で来館した	2	10.5
4. 主な目的を持たずに来館した	1	5.3
合計	19	100.0

問：これまでに常設拠点を利用した回数を教えてください。

選択肢	回答数	割合(%)
1. 今回が初めて	10	52.6
2. 2回目	4	21.1
3. 3回目	2	10.5
4. 4回以上	3	15.8
合計	19	100.0

5. 事業の成果

● 効果検証（定量的な効果の評価・検証）

常設拠点を設置することによる施設の活性化（アンケート）

問：常設拠点がスタートしてからこれまでの間、環境交流センターに来る利用頻度に変化があったかを教えてください。

選択肢	回答数	割合(%)
1. 来る頻度が増えた	10	52.6
2. 来る頻度が減った	0	0.0
3. 来る頻度に変化はない	4	21.1
4. 今回が初めてなのでわからない	5	26.3
合計	19	100.0

問：今後の環境交流センターに来る利用頻度はどのようになると思われますか。

選択肢	回答数	割合(%)
1. これまでよりも来る頻度が増えそう	14	73.7
2. これまでと来る頻度に変化はなさそう	4	21.1
3. これまでよりも来る頻度が減りそう	0	0.0
4. 今回が初めてなのでわからない	1	5.3
5. 今後はまったく利用しないと思う	0	0.0
合計	19	100.0

5. 事業の成果

● 効果検証（定量的な効果の評価・検証）

常設拠点を設置することによる施設の活性化（来館者数）

期間	参加者	施設の 来館者	割合	(参考) 昨年度の 来館者
6/21～30	34	537	6.3%	763
7/1～31	133	1,451	9.2%	1,199
8/1～31	94	1,724	5.5%	1,599
9/1～30	86	1,266	6.8%	1,141
10/1～31	99	1,567	6.3%	1,579
11/1～30	91	1,342	6.8%	1,291
12/1～15	111	933	11.9%	788
合計	648	8,820	7.3%	8,360

アンケートから常設拠点が施設利用の向上につながる事がわかる。
一方で、来館者数における常設拠点利用者の割合は小さく、
大きなインパクトにまで至っていないことがわかる。
イベントやリーフレットでのPR効果か、12月は割合が増加している。

5. 事業の成果

● 効果検証（定量的な効果の評価・検証）

（参考）子ども服イベントを開催することの施設の効果（アンケート）

問：（施設名）の利用について、教えてください。

選択肢	回答数	割合（％）
1.（施設名）の存在を知らず、今回初めて利用した	56	14.9
2.（施設名）の存在は知っていたが、今回初めて利用した	47	12.5
3. 過去に1～2回、利用したことがある	47	12.5
4. 過去に3回以上、利用したことがある	223	59.3
5. わからない	3	0.8
合計	376	100.0

5. 事業の成果

● 効果検証（定量的な効果の評価・検証）

（参考）子ども服イベントを開催することの施設の効果（アンケート）

問：今回、（施設名）へはどのような交通手段で来られましたか。

選択肢	回答数	割合(%)
1. 徒歩	37	18.2
2. 自転車	109	53.7
3. 原付・バイク	3	1.5
4. 路線バス	1	0.5
5. タクシー	0	0.0
6. 自家用車	46	22.7
7. 電車	7	3.4
8. その他	0	0.0
合計	203	100.0

施設により差があるものの、3割近くが施設を初めて利用している。

交通手段について、自家用車は施設の立地や駐車場の有無などで左右されるものの、平均で7割以上が徒歩・自転車でアクセスしている。

施設にとって、子ども服イベントは新規利用者の来館機会であり、地域ごとの開催により、近隣利用者を中心に構成していることがわかる。

5. 事業の成果

● 効果検証（定性的な効果の評価・検証）

子ども服リユースにおける満足度（アンケート）

問：今回の「おゆずりぐるり」について、どれくらい満足されましたか。

選択肢	回答数	割合(%)
1. 満足	270	65.2
2. どちらかという満足	116	28.0
3. どちらともいえない	19	4.6
4. どちらかという不満	2	0.5
5. 不満	1	0.2
6. わからない	6	1.4
合計	414	100.0

参加者の93%以上が「満足」「どちらかという満足」を選択しており、非常に高い満足度が得られたことがわかった。

5. 事業の成果

● 効果検証（定性的な効果の評価・検証）

子ども服リユースにおける環境意識の向上（アンケート）

問：今回の「おゆずりぐるり」に参加して良かったと思う項目をすべて選んでください。（複数選択可）

選択肢	回答数	割合(%)
1. 不要になった子ども服を手放すことができた	232	56.0
2. 子ども服を新たに無料で手に入れることができた	243	58.7
3. 子ども服のリユースという取組みを通じて、環境意識が高まった	153	37.0
4. 子連れでも気軽に参加でき、気分転換になった	63	15.2
5. 子育ての悩みなどを聞いてもらえて、気持ちが楽になった	1	0.2
6. その他	7	1.7
7. 特にない	5	1.2
合計	704	—

参加者の3人に1人以上が「環境意識が高まった」と回答。
環境交流センターのアンケートは42.1%で、割合がやや高かった。

5. 事業の成果

● 効果検証（定性的な効果の評価・検証）

子ども服リユースにおける環境意識の向上（アンケート）

問：環境交流センターの常設場所に掲示している子ども服リユースの説明（展示）についてご覧になりましたか。

選択肢	回答数	割合(%)
1. 今回の利用で読んだ	11	57.9
2. 以前の利用で読んだ	5	26.3
3. 読もうとしたが字が小さくて読めなかった	0	0.0
4. 読んでいない	3	15.8
5. どこにあるかわからなかった	0	0.0
6. その他	0	0.0
合計	19	100.0

常設拠点に展示しているおゆずりぐるりの意義等について、
8割以上の利用者が読んでいることがわかった。
「環境意識が高まった」という割合が高かった要因とも考えられる。

5. 事業の成果

● 効果検証（定性的な効果の評価・検証）

子ども服リユースイベントにおける福祉的效果（アンケート）

選択肢	回答数	割合(%)
1. 不要になった子ども服を手放すことができた	232	56.0
2. 子ども服を新たに無料で手に入れることができた	243	58.7
3. 子ども服のリユースという取組みを通じて、環境意識が高まった	153	37.0
4. 子連れでも気軽に参加でき、気分転換になった	63	15.2
5. 子育ての悩みなどを聞いてもらえて、気持ちが楽になった	1	0.2
6. その他	7	1.7
7. 特にない	5	1.2
合計	704	—

子育ての気分転換につながったと回答したのは約15%と限定的であった。
ただし、野畑図書館は30.2%、みんなあつまれわくわくランド（未就学児
の親子向けイベント）は40.0%と他よりも高くなっていた。
子育て関係のイベント等に参加する意義があると推察される。

5. 事業の成果

● 効果検証（定性的な効果の評価・検証）

常設拠点での実施について（ヒアリング）

※環境交流センター以外の複数施設のスタッフへのヒアリング

<現状とこれまでの印象や課題>

- ・リーフレットを配布してから、新しい人が拠点を訪れるようになった。
- ・配布のニーズが高いため、ハンガーラックを追加した。
- ・施設本来の目的と異なるため、担当課からの反対もあり、市民団体の活動支援として整理している。

→常設設置で来館者は確実に増えて、利用が定着していることから、常設拠点として継続できている。

- ・孫のために持ち帰る年配の利用者も多い。
- ・大人服の回収をしていないのかと聞かれることが多い。
- ・同じ施設内の子育て支援センターと要見守りの人の情報などを共有するようになってきている。
- ・想定していたよりも、シミ・汚れのある服が多く混ざっている。
- ・常設拠点の物品であるハンガーなどもまとめて一緒に持って帰ってしまう人がいる（どう受け止めていくか）。

5. 事業の成果

● 効果検証（定性的な効果の評価・検証）

常設拠点での実施について（ヒアリング）

※環境交流センター以外の複数施設のスタッフへのヒアリング

<今後の要望>

- ・市外からも来る人がいるので、もっと取り組みが広がると良い。
- ・施設の警備員さんに問合せが行くことが多く、警備員さんに趣旨を理解してもらえそうな資料があると良い。
- ・理想は服屋さんのように季節を先取りする形で設置できれば良いが、季節外れのものをどうやって保管していくか。
- ・同じ施設内で毎月、乳幼児健診があるが、スケジュールがわかるのが直前のため、他から定期的に子ども服を確保できると良い。
- ・要支援の人は、服を直接もらうことは「支援されている」と感じて抵抗がある人が多いため、自分で服を選ぶことができる場所（常設拠点）の情報を伝えることができる方が良い。そうしたことから、常設拠点が増えると、案内先が増えるのでよい。

5. 事業の成果

● 効果検証（定性的な効果の評価・検証）

コーディネーターの関与による子ども服リユースの負担軽減と取組み
発信の相乗効果（ヒアリング）

※連携団体でコーディネーターを担っている方へのヒアリング

※ボランティアで常設拠点の対応に関わっている方へのヒアリング

<コーディネーターの関与による負担軽減>

・季節ごとに在庫調整に来てもらい、他から持ってきてくれた子ども服と入れ替え等を行ってくれている。

・在庫がすぐになくなってしまうため、コーディネーターに連絡をして、他から服の運搬（提供）をしてもらっている。

・施設の臨時職員が担当して補充しているが、手が回らないときはコーディネーターにも応援に来てもらっている。

<ボランティアの関与による相乗効果>

・カフェの当番日に子ども服の対応をしているが、カフェの運営が忙しくなってきたら、別の曜日で定期的に補充に来てくれるボランティアがいるとありがたい。

・ボランティアが補充した子ども服が減っていると、ボランティアにとってもうれしくて、活動の励みになる。

5. 事業の成果

● 効果検証（リユース困難な子ども服の対応）

リユース困難な子ども服（シミ・汚れ等のある子ども服）の混入割合

内容	回収	汚れあり	汚れの重量	割合
野畑図書館	2,130枚	135枚	—	6.3%
岡町図書館	2,327枚	89枚		3.8%
ちゃんぷる屋台村	163枚	0枚	—	0.0%
東豊中図書館	3,101枚	68枚	9.5kg	2.2%
とよなか市民環境展	537枚	1枚	—	0.2%
北条公民分館文化祭	296枚	11枚	1.4kg	3.7%
わくわくランド	158枚	8枚	—	5.1%
コープ桜塚(回収)	4,167枚	200枚	※	4.8%
千里体育館(回収)	1,564枚	50枚	7.0kg	3.2%
環境交流センター(常設)	896枚	4枚	—	0.4%
大池小学校	1,094枚	65枚	10.0kg	5.9%
青少年交流文化館いぶき	61枚	2枚		3.3%
合計	16,494枚	633枚		3.8%

※スライド45枚目は回収時の割合、このスライドは撤収時の割合のため、数値が一致していない

※コープ桜塚は、10月が4.0kg 11月が11.0kg

※環境展の1枚はコープ11月分に含んで計量

※わくわくランドは、当日に8枚回収したが、千里体育館の50枚とあわせて持ち帰りコーナーを設けたところ、8枚が持ち帰られたため、すべて千里体育館の分として計量

5. 事業の成果

● 効果検証（リユース困難な子ども服の対応）

リユース困難な子ども服（シミ・汚れ等のある子ども服）の対応

	内容		枚数
【A】	回収ボックスに活用（野畑図書館）		135枚
【B】	シミ・汚れコーナーで配布（一部のイベント）		32枚
	洗濯の試行実施 ※		246枚
	通常の配布に戻すもの		3枚
	洗濯に至らないもの ※	日焼け・色落ちなど	13枚
		破れ・穴あき	20枚
		のび・毛玉・ほつれなど	19枚
		子ども服以外（小物・下着等）	50枚
	未実施（後半回収分）		202枚
	合計		720枚

※洗濯246枚のうち48枚はモデル事業以前の回収分（4.0kg）

※洗濯に至らないもの（8.0kg）のうち39枚はモデル事業以前の回収分

5. 事業の成果

- 効果検証（リユース困難な子ども服の対応）

リユース困難な子ども服（シミ・汚れ等のある子ども服）の例



シミがある



インク汚れがある



日焼け・色落ちしている



穴が開いている

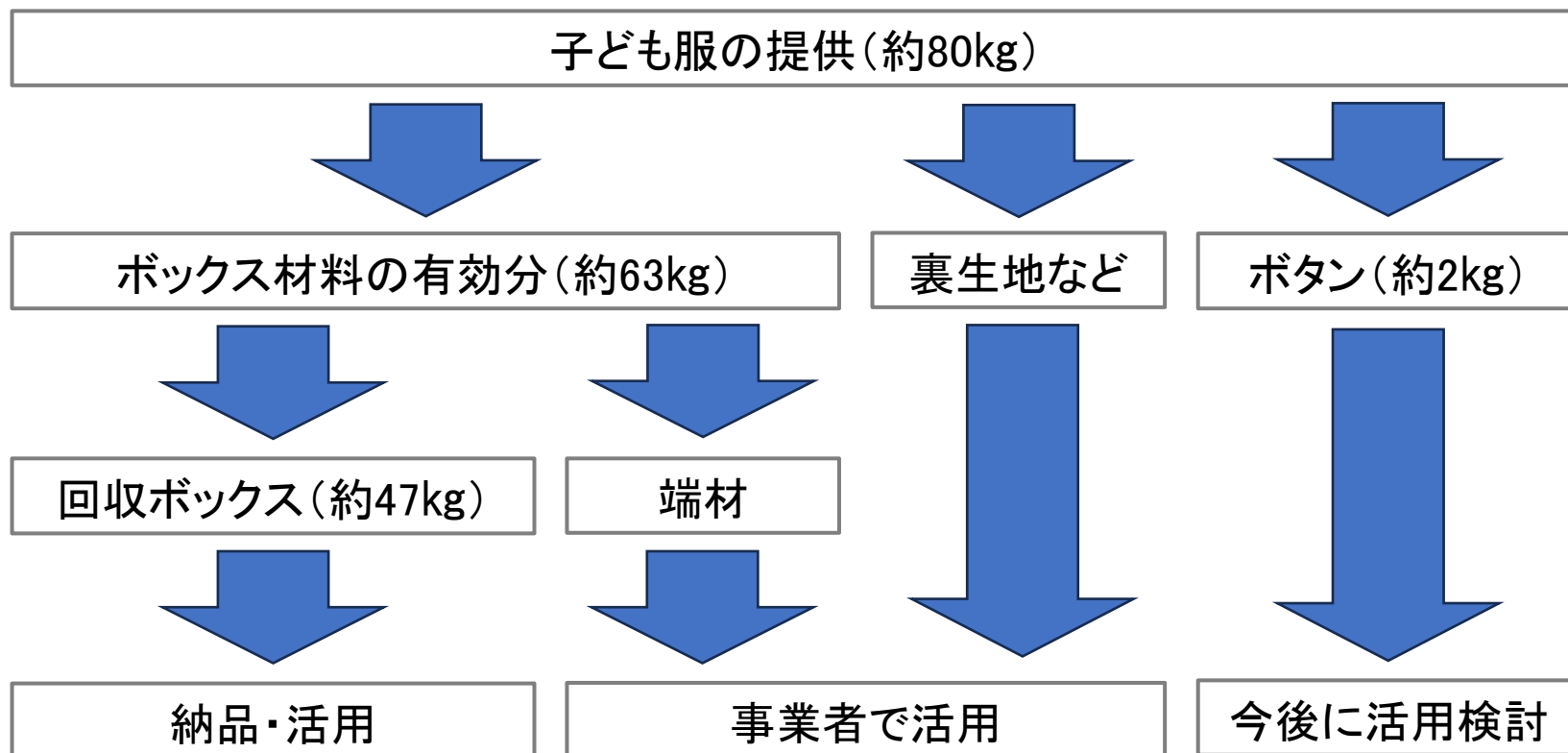


毛玉だらけ

5. 事業の成果

- 効果検証（リユース困難な子ども服の対応）

リユース困難な子ども服の対応【①回収ボックスの制作】

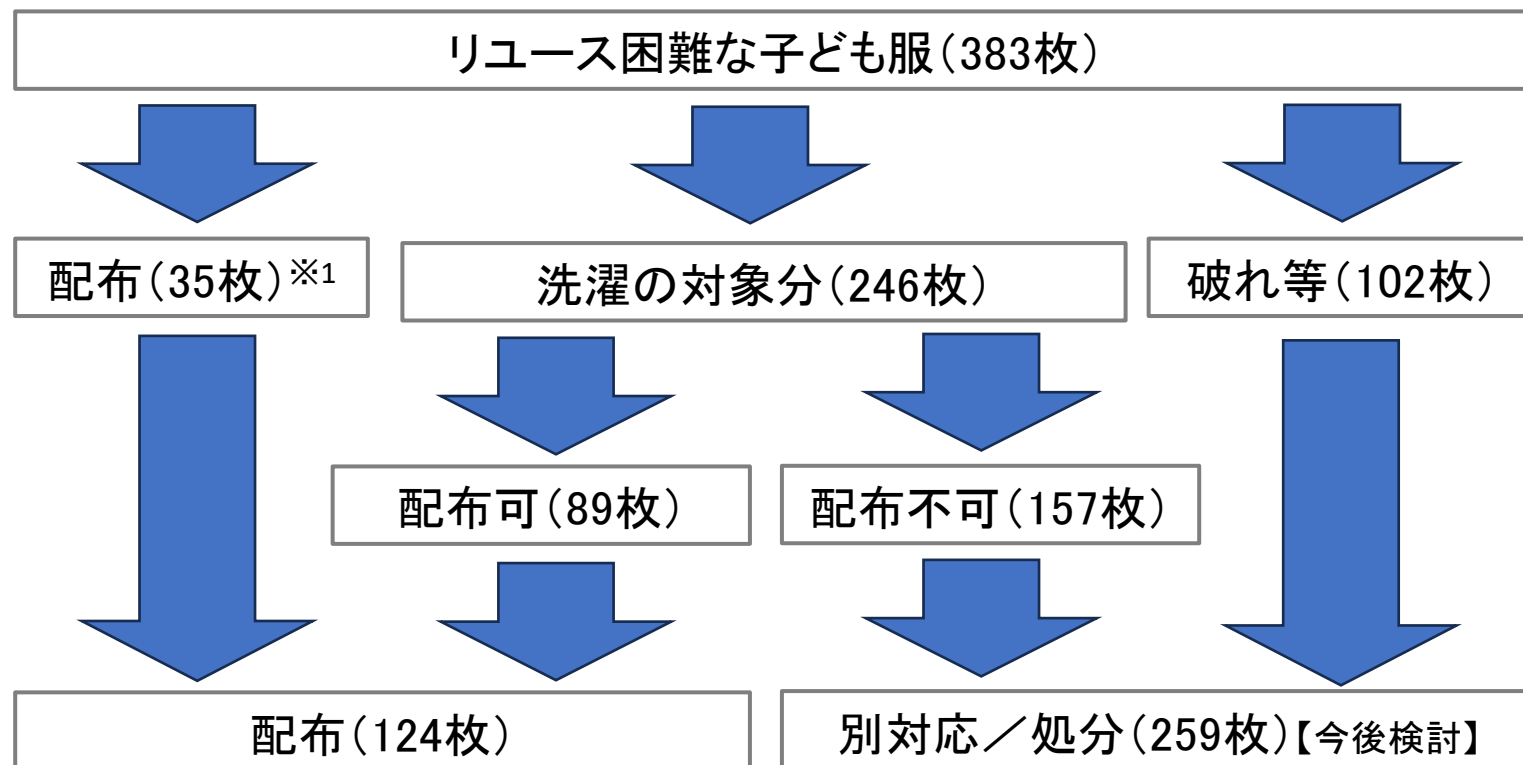


コスト：1kgあたり約6,000円
資源循環：8割近くが製品として利活用（大人服よりロスが多い）

5. 事業の成果

● 効果検証（リユース困難な子ども服の対応）

リユース困難な子ども服の対応【②洗濯の試行実施】



※1：イベント会場に設置した「シミ・汚れありコーナー」で持ち帰られた枚数

コスト：配布可1枚あたり約470円（外注費を配布可枚数で割り算）
リユース：1/3程度が子ども服として配布可能となった

5. 事業の成果

● その他（子ども服の保管について）

① 豊中市環境事業所

豊中市家庭ごみ事業課がこども園で回収した子ども服は、環境事業所の一室に保管されている。スペースがあるため、ダンボール箱以外に、衣装ケースでの保管や、ハンガーラックにかけた状態でも保管されている。

市民団体等が手続きをして、環境事業所に保管されている子ども服を提供してもらい、自分たちの活動で配布等を行うことができる。また、残った子ども服や新たに回収した子ども服を引き渡すこともできる。

なお、本報告書の提出時点で、2,000枚以上の子ども服を保管している。



5. 事業の成果

● その他（子ども服の保管について）

② 豊中市立環境交流センター

本モデル事業の開始当初は、イベント開催時に家庭ごみ事業課から子ども服の提供を受けて実施していたが、事業を通して回収した子ども服が増えたこと、また、まずは市民団体で子ども服を融通して不足する場合は豊中市に協力を依頼しようとしたことから、当団体が指定管理者となっている環境交流センターの倉庫にも子ども服の保管を始めた。

仕分けしてサイズ別にダンボール箱に入れ、箱いっぱいまで入れた状態で封をして、箱に入った枚数を記載して保管している。他の常設拠点等から申し出があれば、サイズ別で箱ごと運搬・提供をしている。

なお、本報告書の提出時点で、1,500枚以上の子ども服を保管している。



6. 今後の検討課題

●豊中市と当団体で保管する子ども服のサイズ調整

→こども園で回収した小さいサイズを多く保管する豊中市に対して、本モデル事業を通じて当団体が回収した子ども服は大きいサイズが多く、現時点でそれぞれに偏りがある状態となっている。中間報告会の頃に、まずは市民団体で子ども服を融通し、不足する場合は豊中市に協力を依頼する旨を確認していたが、双方でサイズの異なる子ども服をトレードするような連携・情報共有が必要である。

●シミ・汚れのある子ども服の対応

→各常設拠点で出てきたシミ・汚れのある子ども服を保管する状況が増えつつあるため、廃掃法との関係から、各団体が連携してリサイクルしていくことなどが考えられるが、費用負担等も含めた検討が必要である。

●ボランティア・コーディネーターの仕組みの推進・発展

→ボランティア等の仕組みは始まったところであり、引き続き運用をしながら改善・発展をさせていく必要がある。また、ボランティアの活動が活発になるほど、ボランティアに支払う経費が増え、常設拠点でストックされる子ども服の回転が速くなるため、適切な頻度等を含めた検討が必要となってくる。

6. 今後の検討課題

●ターゲットを絞ったアプローチや広報

→これまでのイベントでは、できるだけ多くの人に広く知って参加してもらうことが目的であったが、今後は乳幼児健診に参加する保護者や、子ども食堂の運営関係者など、特定のターゲット層へのアプローチや発信を検討していくことが考えられる。

●小学校での環境学習や子ども服回収の推進

→本モデル事業で小学校での環境学習や子ども服の回収を実施したが、次年度以降に豊中市と連携して実施する見通しは立っておらず、先ずは地道に実績を重ねていくとともに、今後も継続して検討・協議していくことが必要である。

●新たな予算の獲得

→本モデル事業で負担した連携団体の費用や、今後ボランティア等が拡充した際に不足するであろう交通費などの見通しが立っておらず、新たな予算の獲得を検討していくことが必要である。

6. 今後の検討課題

●関係者で目標の設定と共有

→本モデル事業では、参加者や回収・配布の数値目標を設定し、その実現に向けて取り組んできた。現状では、廃棄物関係の行政計画に子ども服の目標値等の設定がないため、関係者で独自に目標値を設定・共有し、その実現に向かって推進していくことが必要ではないか。

●今後の取組みのボリュームが定まっていない

→目標設定とも関連するが、今後に当団体の職員や、各連携団体のメンバーが子ども服の取組みにどれくらいの労力を割くのか、どれくらいの取組みを調整するのかが定まっていない。持続可能な活動としていくためにも、取組みのボリュームを明らかにしていくことが必要である。

→効果測定のための労力と成果の見える化も未定である。本モデル事業中は枚数や重量カウント、シミ・汚れのある服の動向にいたるまで、効果測定のためにかなり細かい把握を行い、その労力は大きかった。本モデル事業の終了後は、労力を減らすためにカウントなどを簡素化する意見もあるが、その一方で、詳細なカウントを行うことで引き続き効果測定が可能となるとも言える。今後どれくらいの労力を割くのか、どうした成果を把握していくのかも検討が必要である。

7. 事業終了後の展開

●今後の取組みについて（年度内）

- ・ コープ桜塚での回収は継続する

2025年6月まで継続し、それ以降はあらためて協議することとなった
コープ桜塚からの要望があればイベント等にあわせて子ども服を配布
コープ桜塚の回収分は、ボランティアに呼びかけて仕分けする

- ・ 1月頃にボランティア体験会を実施する

モデル事業の後半にアンケート回答した人が参加できる場を作る

- ・ コーディネーターやボランティアの常設拠点の対応は、引き続き進める
担当や頻度・回数などの調整も引き続き進めていく

- ・ 2～3月頃にイベントでの新たな配布が考えられる

以前に意見があった服部図書館などが候補として想定（調整は未）

- ・ 乳幼児健診での子ども服配布の試行実施ができるかを調整する
- ・ 年度内に意見交換会を2回程度開催し、次年度に向けての検討を行う

7. 事業終了後の展開

●今後の取組みについて（次年度）

- ・ 環境交流センターの予算は今年度と同程度（約50万円）を確保する
うち30万円程度をコーディネーター等の交通費とする
- ・ 広報関係で市の協力を得て実施できるように調整する
環境部の窓口で追加的に「ごみカレンダー」を取りに来た人へリーフレットを配布
転居してきた人にごみの分別冊子を渡す際にリーフレットを配布
赤ちゃんが生まれた家庭に訪問する事業でリーフレット配布を依頼
- ・ 次年度のイベント実施分のマチカネポイントの費用を市の予算で確保
- ・ 環境部が校長会で配布する環境学習の一覧に、子ども服の出前授業を入れる
希望する小学校からの申し出があれば、それに対応する形で実施する
一部の学校へ個別に打診の際も、情報提供をしておけば説明がつく
環境学習とあわせて、子ども服の回収も提案してみる
子ども服の回収は、小学校へ取りに行く形で引き取る
- ・ 今年度を実施した図書館は、次年度も同時期に実施で依頼をしていく

8. 横展開へのポイント

●運営に関心がある人への情報提供

・ボランティアの中には、現在は育児休業中だが、本職は他市の自治体職員で、復職後は勤務先でも取り組んでみたいといった声もあり、本モデル事業で制作した手引き等をどのように活用していくかがポイント。

●新たな拠点等との連携

・これまでは公立の施設や学校園などとの連携が多いが、私立のこども園等でも関心のあるところや、子ども服の買取・販売を行っている事業者などとの連携が考えられる。服の融通等も含めて、新たな拠点とどのように連携していくのがポイント。

●近隣の他地域との連携

・他市から電車等でわざわざ子ども服を回収・配布に来る人もおり、近隣地域とも連携して広げていくことができるかがポイント。コーディネーターの中には、近隣他市の団体等ともネットワークがある人もいるため、市内に限定せずに展開していくことも考えられる。

●子ども服以外のリユース品との連携

・常設拠点の中には、子ども服以外のおもちゃや学用品等も含めて、配布や回収をしているところもあり、また、アンケート等から子ども服以外のニーズも高いことから、どこまで広げていくかがポイント。また、環境交流センターでも別事業で制服・学用品等を回収・提供する取り組みを行っており、それぞれでどのように相乗効果を生み出していくか。